

<https://gjs.jp/wp/wp-content/uploads/2023/06/材料代計算シート検証講習推奨データ.xlsx>

↑

上記リンクをクリックすると、Excel ファイルがダウンロードされます。

これは6月4日検証講習で参加者の皆さんと導き出した『材料代計算シート』の結果です。

今後、皆さんの会社で使っていただくため、製品名と製品価格を修正可能にしております。

※自動計算機能の保護のため、段や列を消したり増やしたりは出来ません。

なお、今回の検証に使用した車種と作業条件は下記のとおりです。

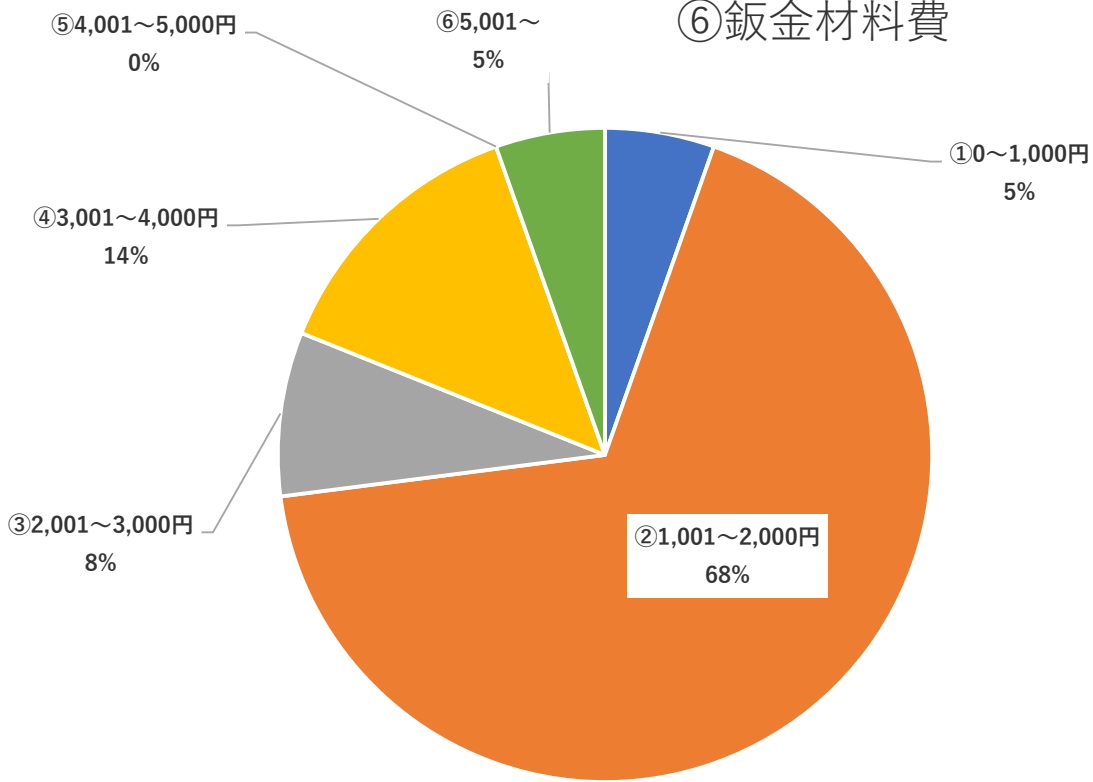
車両データ：平成19年式 NZE144 カローラフィールダー カラー1F7(シルバーメタリック)

作業データ：左前ドアに水平方向8dm ランクCの損傷を钣金修理する。塗装は左右(左Fフェンダと左Rドア)パネルへボカシ塗装をおこなう。塗装指数の合計は5.6です。

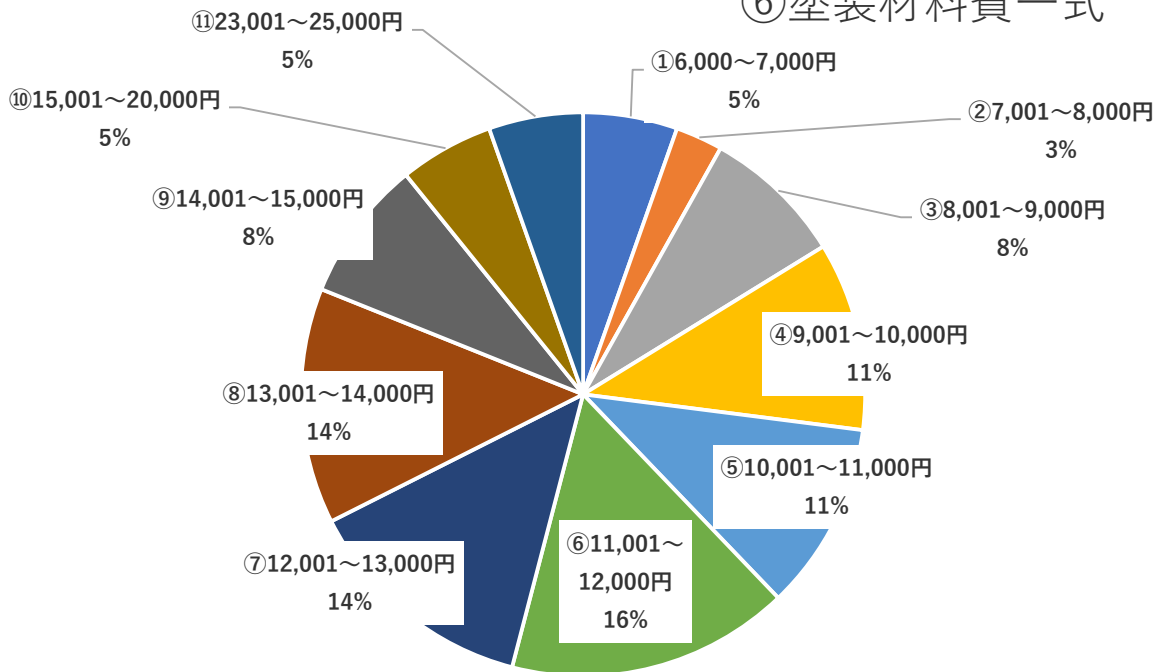
※作業工程がわかる画像を下に添付します。使用材料をイメージする参考にしてください。



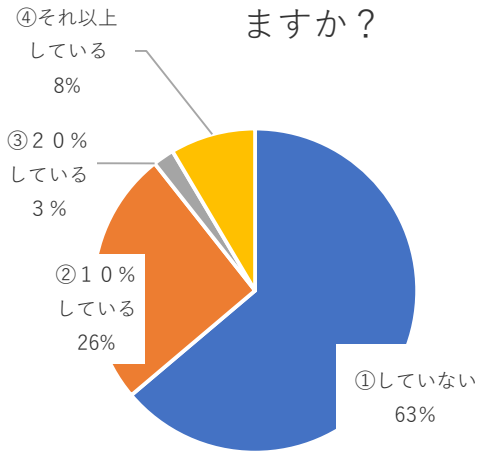
⑥ 鋁金材料費



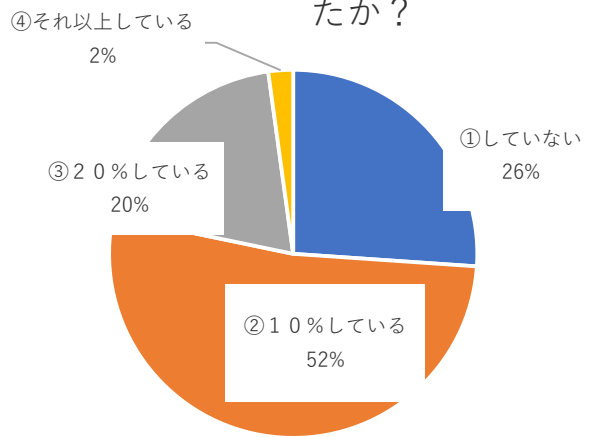
⑥ 塗装材料費一式



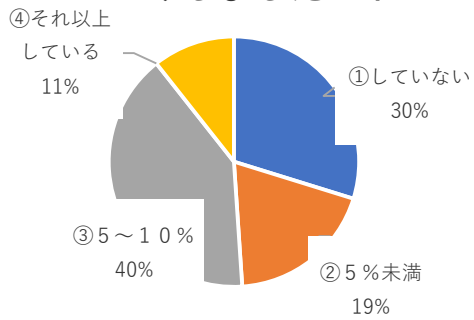
② 鋁金材料費は請求していますか？



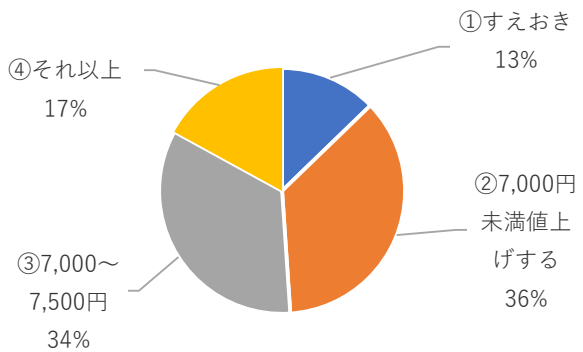
③ R4 材料費値上げをしましたか？



④ R4 レバーレートを値上げしましたか？



⑤ R5 レバーレートをいくらにしますか？



問2： 鋳金材料費は請求していますか？

未だ鋳金材料費を請求していない会員が6割を超えている。昨年秋に日車協連の調査研究委員会が実施した材料代実態調査においても全国の61.6%の会員さんが未請求である事が明らかになっている。今回の検証講習で事業委員会が推奨する作業工程で使用した材料から算出された鋳金材料費（副資材を含む）は原価で¥3,181円でした。（作業内容はフィルダーのフロントドアに水平方向8dmランクCのヘコミを鋳金した）

この結果から未請求の方は工賃で材料費を捻出しており、実質的に鋳金材料費は赤字であり早急な改善が必須である。

※今回の検証作業ではスポットやMAG溶接を使わない内容。これらを使用する場合は上記金額の3～5倍の材料費が必要となる事を付け加えておく。

問3： 令和4年度に材料代を値上げしましたか？

先ほど同様に日車協連調査研究委員会の実態調査で『直近の仕入れ値の値上がりは10～20%台が65%を占め、30%台も約17%占める』との結果が出ています。

値上げしていない会員さんをはじめ、値上げ率が20%以上の会員さんでも早急に仕入れ価格を確認し最低でも原価割れしない請求金額への修正を早期に実施する必要がある。

※仕入れ会社(塗料販売店さん)に、使用している材料の仕入れ値リストを作成してもらう事をおすすめします。

問4： 令和4年度にレバーレートを値上げしましたか？

レバーレートを構成する水道光熱費が値上がりしていることから、レバーレートを値上げすることは当然のことである。にもかかわらず3割の会員さんが値上げしていませんでした。

令和4年度に消費者物価指数が2～3%上がったことで保険会社が我々のレバーレートも2～3%上げる対応をしていますが、我々が用いる指標は企業物価指数であり同じく令和4年度においては10%前後の上昇率であったことから、5～10%程度値上げしている会員さんでさえも物価上昇にともなう工賃単価(レバーレート)アップが足りていないと思われます。

※レバーレート6,500円の会員さんが2%アップすると6,630円、10%アップすると7,150円になる。

問5： 令和5年度はレバーレートをいくりにしますか？

値上げして7,000円以上とする会員さんが5割を占める結果となりました。その反面、すえおく(値上げしない)を含む7,000円以下の値上げにとどめる会員さんが残り半数(49%)であることがわかった。

今後(令和5年度)も物価は上昇する見込みであることや政府が賃金アップを推奨・支援する時代を考慮すると令和5年度もレバーレートを最低でも5%程度上げざる負えないと考えます。

問6： 今回の講習で御社の『鋳金材料費(原価)』はいくらになりましたか？

1,000～2,000円を選択した会員さんが7割弱を占めた。

問2で示したとおり事業委員会が今回の鋳金作業で推奨する使用材料費(副資材含む)は原価で3,181円であることから、0～3,000円を選択した81%の会員さんは請求金額が不足していると思われます。

※鋳金材料費は工賃やレバーレートに含まれておらず、別計上しないと完全に請求漏れ(工賃を圧迫)となります。

問6： 今回の講習で御社の『塗装材料費(原価)』はいくらになりましたか？

6,000～15,000円の範囲を1,000円刻みで観察すると、マンベシナク(各5～15%程度)分布していることがわかる。

鋳金材料費同様に事業委員会が今回の塗装作業で推奨する使用材料費(副資材含む)は原価で13,041円であることから、13,000円未満を選択した7割弱の会員さんは原価割れしています。

上記に当てはまる会員さんは早急な改善が必要です。そのため今回GJSで開発した『材料代計算シート』をご活用されることをおすすめします。

※上記シートは組合ホームページ(会員専用ページ内)でダウンロード出来ます。